

# ケヤキ並木の寺子たち 矢島勝昭

●「春」鬼子母神表参道けやき並木の大門で、料理茶屋、万屋浅五郎の娘おぬい15歳と、同じく蝶屋金二郎の倅政吉11歳が人を待っていた。二人は去年、天保10年正月から近くの柳下安兵衛の寺子屋へ通っている寺子（生徒）だった。間もなく参道の泥道を小鞠のように飛んできたのは、今年2月初午から寺子の仲間入りをした茗荷屋沖右衛門の倅小太郎7歳。天保11年4月末、朝日をうけたけやきの若葉が眩しかった。

●寺子屋の安兵衛先生は大地主や富農でもないが、村の知識人として14歳から村役を勤めたほどの人物で、村民の要望もあり、奉仕のつもりで屋敷の一部を寺子屋とし、先生役も引きき受けていた。朝は7時半からで昼飯が1時間、たいていの寺子は自分の家へ帰って食事をとる。午後は約半数の子は家業の手伝いや女子は習い事などで戻ってこない。それでも2時半まで授業は続く。寺子屋へ初めて入る子は普通「いろは」の読み書きから入るが、鬼子母神の料理屋では子弟教育が根付いていたせいで、おぬいと政吉は「いろは」は通り越し「日常の教訓」や「礼儀作法」「手紙の書き方」など、いわゆる「往来物」から入っていた。

●安兵衛先生は寺子が少なくなった昼過ぎ、男女を同じ部屋に集めてこんな話もしてくれた。「鬼子母神大門から少し南へ行ったら柳の下に、そば屋村田屋さんがある。主人は佐源次さんと言って、評判の道理の通った人で、店にも生一本の若い雇い人がいた、ある年池袋村との境で『板橋へ行くのはこっちか』とお百姓さんに杖の先で尋ねる侍がいた。家来も従えた横柄な侍だ。問われたお百姓さんがおどおどしているの、通りかかった村田屋の若い雇い人が蕎麦の荷を背負ったまま『ほれ、こっちだよ』と足の先で道を指した。『無礼千万』と侍は立腹したが『足代わりの杖で尋ねたから足で教えたんだ。偉い人だろうが何だろうが、人に教えるときは、師弟の礼儀があることぐらいわきまな』と言い捨てて駆け去ったという」。話を聞いて寺子はいっせいにパチパチと手を叩いた。「佐源次さんの倅、渡辺定五郎さんも、12年前にこの寺子屋へ通っていた人だが、今はいい若者になっている」。安兵衛さんの口元がほころんだ。

●「夏」家へ帰って昼飯を済ませたおぬいと政吉と小太郎の3人は、けやき並木の日陰から飛

び出して照りつける畑道を急いだ。今日も昼飯から戻った男女を一部屋にあつめて安兵衛先生が話をはじめた。「ぬいさんは聞いたことがあるだろうが、万屋のお爺さんの話だ」おぬいは首をかしげた。「ある年、鬼子母神の祭礼の当番に当たった万屋さんと橘屋さんが正月15日の夜、赤飯3石2斗を2軒で分けて蒸すことになった。橘屋では難なく蒸しあげてしまったのに万屋では湯気も立たない。釜を取り替え水も取替えてみたがだめ。蒸し籠やその外みな取り替えてもだめ。困り果てたあげく出家3人を頼んで祈ってもらった。すると不思議なことに釜は即座に湯気をあげ、あれよあれよと言う間に美味しそうに赤飯が蒸けたのでびっくり仰天。このことは万屋も橘屋も後々の語り草としていたという。信仰の不思議な力と言おうか」。

●「秋」ケヤキ並木の梢は金色になった。昼飯を済ませて3人は寺子屋へ急いだ。男女集まって安兵衛先生の話聞く。「小太郎さんのお父さんは茗荷屋沖衛門さんとおっしゃるが、同じ名の先代の沖衛門さんは狂歌が師範の腕前で、しかも大変な友だち思いのお方だった。号を塩梅舎辛伎とあったが、早世した二人の友人を悼み、二人の号から一字ずつ月と花を読み込んだ歌を詠んで大田蜀山人先生に筆を頼み、「月花塚」と名づけて本納寺本堂前に碑を建てておあげになった。塚の前で追悼の歌会を開き『おもひ出てなみだに絞る袖袂「花」の曙「月」の夜すがら』と詠んだそうだ。寺子たちはみんなしんみり聞いていた。注；歌碑は現存。

●「冬」葉をすっかり落としたけやき並木は明るい。待ち合わせた蝶屋の政吉と茗荷屋の小太郎は霜柱を踏んで寺子屋へ向かった。万屋のおぬいは寺子を1年余りで終えて牛込のさる店へ奉公に入った。小太郎たちも、たまにおぬいと道で会うが、すっかり大人びた挨拶を返されてめんくらった。幕末の世間は次第に騒がしさを増していった。

●時代は明治に代わった、安兵衛先生は相変わらず村の組頭を勤めていた。が、もう寺子屋はやめていた。けやき並木の料理屋がほとんど廃業する中、蝶屋だけは正末まで店を続け、名物のすずめ焼きを商っていた。蝶屋の最後の主人は半三郎といって、すずめ取りの名手で、もち竿で狙った獲物は絶対に逃さなかったという。（資料「豊島区史」「豊島風土記」「雑司が谷と私/後藤富郎著」）

●企画/発行  
池袋南地区まちづくりの会  
豊島区都市整備部住環境整備課  
☎ 直通 3981-0489 森/中島/和久井

●編集協力  
株式会社 エコライン  
☎ 04-7166-6981 小野  
豊島区広報印刷物

# ぞうしがや

## 第3回 防災まちづくり イベント 過去最高の盛り上がり

去る11月6日、第3回防災まちづくりイベントが開催されました。今回は天候にも恵まれ、過去最高の300名以上の方が参加されました。

会場の南池袋小学校のグラウンドでは、防災をテーマにした展示や投てき水パック、煙体験、非常食の試食などが行われ、同時にそれらをまわるスタンプラリーが行われました。

それらの例年と同じ企画と共に、今回は新しい企画が目立ちました。竹馬づくり、木工教室、かざぐるまづくりなど、手を使っていろいろなものづくりに挑戦するコーナーでは、熱心に取り組む子供たちの姿がありました。また、体育館で行われた地域の歴史を書いた紙芝居やカルタ遊びにも大勢の子供が参加していました。

設計豊島共同組合による悪質リフォームの寸劇や、西アフリカ音楽を演奏するグループなど、外部の参加者の協力もいただき、にぎやかなイベントになりました。



# ひろば案を提案します

## ひろばの計画づくり

まちづくりの会では、この3月で閉園となる南池袋保育園跡地の計画づくりを行ってきました。

計画づくりには、跡地の近隣の方々にも参加していただき、7回に及ぶ検討会を行いました。検討会では、どのようなひろばにしたいか、災害時にはどんな役割を担うか、ふだんはどんなふう利用するか、維持管理はどうするかについて話し合いました。参考となる事例として、上池袋の堀の内公園や、池袋本町の本町防災ひろばの見学会も行ないました。その結果、次のひろば案がとりまとめられました。

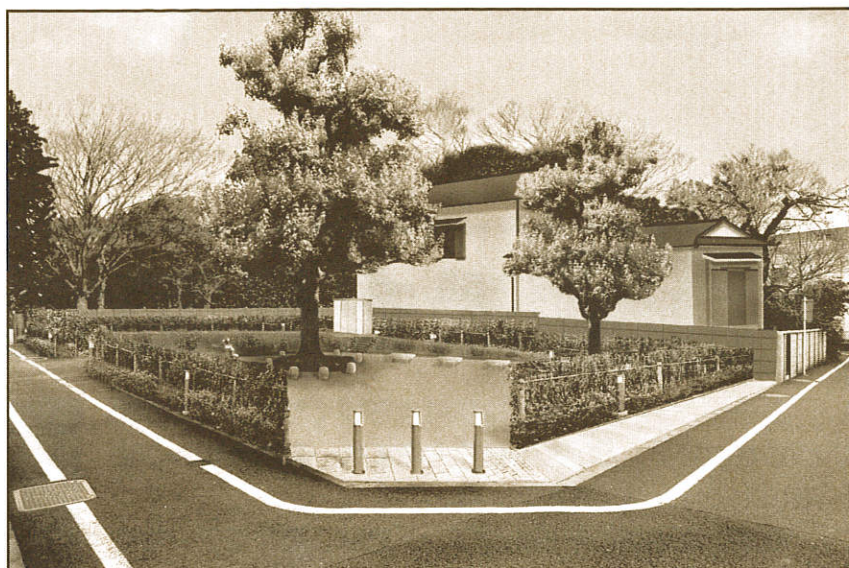
## 意見が分かれたフェンス

検討会の中で意見が分かれたのが、維持管理についてです。近所の方々はこのひろばが、路上生活者や若者のたまり場にならないかを心配されています。普通の公園であれば24時間開放が前提となりますので、これらの人が入りにくくすることは難しくなります。フェンスと扉を付けると夜間のたまり場となることは防止できますが、鍵の管理をどうするかという問題がでてきます。



一方、このひろばは防災利用を前提につくるのだから、フェンスがあつては災害時に使いにくいのではないかと危惧する意見もあります。

何度も議論を重ねた結果、今回の提案ではフェンスと扉をつける案とすることにしました。災害時の利用も考えて、フェンスの高さは簡単に乗り



●境界のイメージ (イラスト：宮崎紀玖雄)

越えられる高さの1.2mを提案しています。生垣と組み合わせれば景観的にも違和感のないものにできると考えました。

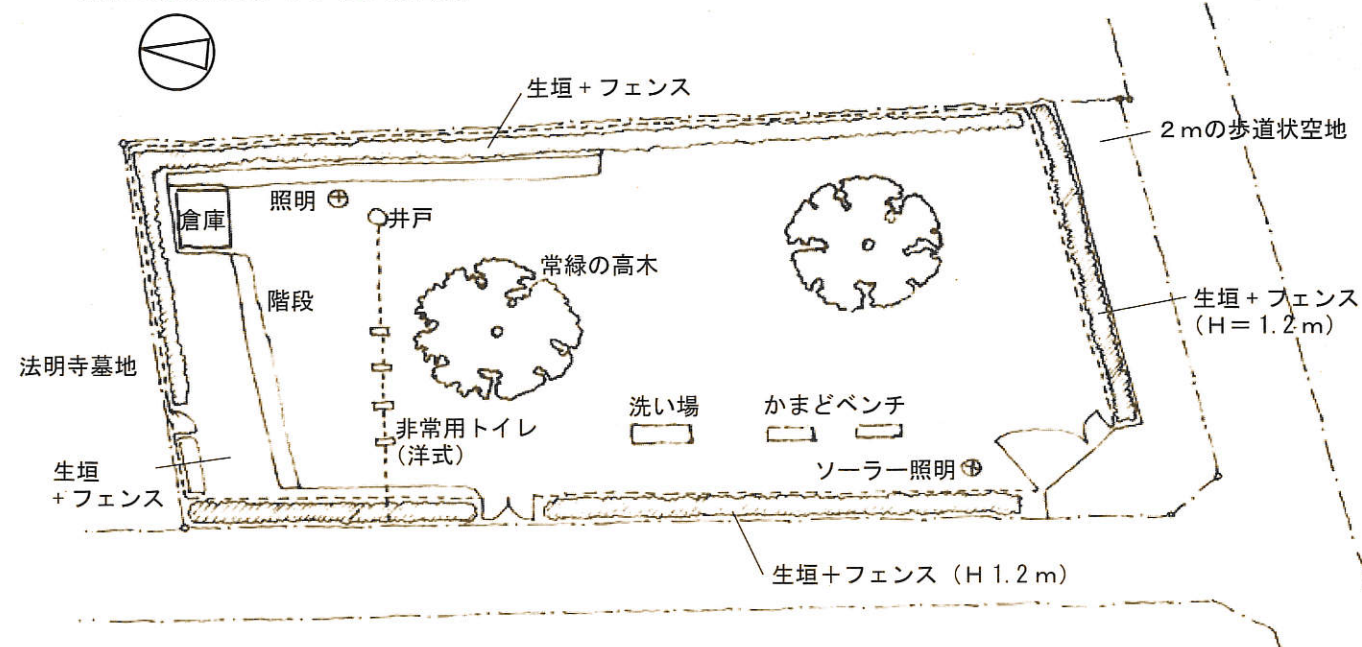
扉には鍵をつけ、夜間は閉鎖することを考えています。鍵の開閉は地元の住民と町会が協力しあうという提案がされています。

## ひろばの防災利用

このひろばは災害時に利用するひろばとなります。そこで、どのような利用ができるかを検討しました。

まず前提となるのが、この地区では防災センター校として南池袋小学校が指定されていることです。防災センター校とは、災害時に避難や防災活動の拠点となる施設のこと。区の職員が駆けつけ、各町会と協力しながら地区の本部を設置する場所です。校舎や体育館は避難所ともなり、そのためにさまざまな設備も設置されています。

南池袋保育園跡地ひろば計画案



それに対してこのひろばは、防災センター校で行われる活動を補助する役割を持ちます。具体的には、災害後の炊き出しや生活水の配布、トイレなどが想定されます。したがって整備される防災設備もその活動に合うものとなります。今のところ予定されている防災設備は次のものです。

- 非常用トイレ……下水道本管に直結されます
- 防災井戸……手押しポンプで汲み上げます
- かまどベンチ……炊き出し用のかまどになります
- 倉庫……資機材などを保管します
- 照明……平常時のひろばの照明です

## ふだんから親しまれるひろばに

防災のためのひろばは、災害時にだけ利用できればよいというものではありません。ふだんからたくさんの方に親しまれることが、いざと言う時のためにも大切です。親しまれるひろばにするにはどうし

たらよいか。会ではいろいろなアイデアが出されました。例えば菜園や花壇を作って地元の皆さんが参加できるようにしたらどうかという意見も出されています。一方、これらの施設は継続して利用されないと荒れてしまう心配がありますし、特定の人が占有してしまうことも問題となります。

普通の公園と違ってひろばのよいところは、使い方を考えながら実現していくことができることです。地元の皆さんのご要望も伺いながら、どのようにしたら親しまれるひろばにできるかを、引き続き考えていきたいと思ひます。

## 区長に提案

このひろばの計画案は、下記の説明会などによって地域の皆さんの意見を伺い、4月中には区長に提案する予定です。その提案を受けて区では設計を行ない、平成18年度中に完成させる予定です。

### ご意見・ご希望をお聞かせください

このひろばの計画案に対するご意見やご希望をお聞かせください。

事務局：豊島区住環境整備課  
担当：森・中島・和久井  
電話：3981-0489

### まちづくりの会からみなさんへ

## ひろばの説明会

まちづくりの会では、このひろばの計画案を地域の皆さんにご説明し、直接ご意見を伺います。下記の日程で説明会を開催します。お誘い合わせの上ご参加ください。

日時：2006年4月11日(火)午後7時～  
場所：高齢者福祉センター2階会議室